



秋厚労ニュース

秋田県へ要請

秋田県医労連

5月1日（金）、秋田県医労連は、秋田県に対し「『医療崩壊』を防ぐために必要な資材を求める要請」を行いました。秋厚労2人を含む5人が参加し、医療現場の状況を伝えました。県からは、佐々木健康福祉部長、伊藤次長など3人が対応しました。



県の担当者に、実態調査に寄せられた現場の声を伝えました

会場に着くと、廊下に報道機関の人がずらっと並んでおり、医療労働組合の要請に対する関心の高さを感ずりました。
秋田県医労連は、県に「新型コロナウイルス感染症」に関する実態調査（日本医労連、4月実施）の秋田県分の集計結果（秋厚労8支部を含む13組織分）を提出し、「マスクや消毒液などの必要な衛生材料が行き渡るよ

医療物資確保・医療機関等への財政支援を求める

う早急な手立てを」（医療機関等へ）公的資金による財政支援を」など12項目を要請しました。

要請文書を手渡すと、佐々木部長は「医療現場の皆さんには、いつも頑張っていたいただきありがとうございます」と受け取りました。

実態調査に寄せられた現場の声を紹介

県医労連の松坂書記長が「人員が2倍必要、物資が不足」「感染が広がったら、病院と看護部が持ちこたえるか不安」「直接患者と接しない職員は自前のマスクを使う」など、調査に寄せられた

声を紹介。「マスクや防護具など、物資不足だと現場から声が上がっている。全国では手当増額の動きもあるが、民間病院ではなかなか進まない。労働組合も取り組むが、県として支援をお願いしたい」と訴えました。
佐々木部長は「日頃から感染リスクに接しながら、従事していただいている。貴重なものとして受け止め

る。ありがとうございます」と話しました。

夕方のニュースで報道

県への要請後、県庁記者クラブで記者会見を行いました。

記者から次々に質問が寄せられ、参加者は「今までは患者さん1人に1枚のマスク・ガウンを使っていたが、今は1日1枚」「昼食は感染対策のため、会議室で、お互い向き合わないように摂る」「県民の命を守るために、病院を支援してほしい」



記者会見の様子

などと現状を伝えました。記者会見の様子は、同日夕方のニュースなどで報じられました。

“みんなの困っていること” アンケート実施中

職場や家庭で困っていること、感じていることなどを秋厚労にお寄せください。一言でも結構です。

web版もあります（パソコン、スマホのみ）

※右のQRコードをスマートフォンで読み取るか、その下のURLをパソコンに入力してください。



URL <https://questant.jp/q/EPPKLZEJ>